

山行に行ったら発行

しろうま ニュース

障害がある人もない人も一緒に登山を楽しむ会



8

2013

今年も行ってきました、夏山。



8月夏山

2013年8月24日~26日

八ヶ岳 東天狗岳

天狗岳

(標高 2,040 m)

幹事 高橋

『あ〜!! せめて半日、時間をずらすことができたなら…』 雨上がりの夕焼けを見ながら、そう思わずにはいられなかった…。



【プロローグ】

今春に新生しろまの会になったばかりで、準備は遅れたものの、今までこだわってきた夏山は、やはりそれなりの山へ行きたい。そう思って選んだ山だったが・・・

最初の夏山募集では、要サポートは一人。寂しいところだが、逆になんとでもなる。そんな状況でルートを検討しつつ、追加募集をすると今度はサポートが危うく、またまた追加で応援をお願いして一時は25名を越える参加人数にもなったが、最終的にはコンパクトな人数に。(みなさん、来年は早目に申込んでね!!)

概ね参加者も固まった7月中旬、渋の湯からのコースならなんとかなるかと思っただけに登るも、黒百合ヒュッテに着く前に、このコースはきつ過ぎて断念。若い頃に登ったイメージと今では全然違

うことに、驚かされる。早くもルートを再考しなければ、ならなくなった。天狗岳に登ったあと下山を高見石方面に変える。こちらは、初めてのルート。こちらにも、北八ヶ岳特有の大岩の上に道がついたかなり長い下り。「ここも厳しい」と、一旦は天狗岳を諦めて、同じ北八の北横岳とも思ったが、一度登ったこともあり、またロープウェイを使って楽するよりも、苦労してでも、「やっぱり天狗岳に」と決め、ルートも白駒池からの往復に変更した。

最終的には、サポート人数もぎりぎりだが、ほぼ班分けも決まり、あとは天気がどうなるかが心配。猛暑もひと段落したら、前線が急に南下して全国のあちらこちらで大雨。週間天気予報で逐一チェック。前日の天気は、土曜日は小雨ながら日曜日は晴れ時々雨。

【出発当日】

「朝から雨だと嫌だなあ」と思いながら、集合の新宿へ到着。 集合場所付近は貸切バスでいっぱい、予定の場所にバスは見当たらず、ほどなく雨もぱらついて来た。やっとバスを見つけて、ほぼ予定どおりの出発を Facebook にアップして出発。



天気予報が芳しくないせいか渋滞も思ったより少なく 13時に白駒池入口に到着。さすがに標高が高いので半そででは寒い。ここでNさんの婿殿と孫殿が合流して合計 20 名に。出発の準備の後、白駒池入口で、全員の写真を撮って各班ごとに 13時 30 分に出発。早めに着いたら高見石を登ることになっていたので、池には寄らず高見石小屋に直行。それほど急な道ではないが、小屋に着くまで早い班とは 30 分程度の差ができてしまった。小屋に着く頃には小雨がぱらついて高見石は諦めて小屋に入る。

小屋は 2階建てで、寝室は 2階。心配した階段も手すりが付いていて、問題もない。土曜日ではあるが、さして混んで



もない。やることもないので、夕食前までは持ち寄ったお酒とつまみで宴会。夕食後は、小屋の名物のランプの下でミーティング。明日のルートの確認と早立ちの指示。寝る前に外に出てみると、小屋前に張られたテントから「星が見える」と声がする。見上げるといくつかの星が。「明日は晴れだ」と安心して布団の中へ。

【頂上を目指して】

翌朝、山小屋では珍しいパンとコーヒーという洋食の朝食。「山を登る朝飯は白飯でないとか力が出ん！」と言いながら、5個ほどパンを平らげて、外に出ると小雨模様。予定より 30分遅れて3班に分かれて出発。我ら A君の班は、本山下山する予定の婿殿親子が加わり出発。



最初は霧雨程度だったので、雨具を着ずに出発したが、すぐに本格的に降り出し、すぐに雨具を着る。雨で登山道の岩は濡れて滑りやすい。さらに延々と登りが続く。下見の時に覚悟はしていたが、雨の中、樹林帯の風景が変わらないところを登るのはかなりつらい。「やっぱり登山とは修行だな。」そう思いながらひたすら登る。ひとりだったら、滅入ってしまいそうだ。



A君へのサポートは横に着いて行うので、登山道脇の樹木の枝に足が当たって、水滴がズボンを伝って靴の中に入ってくる。それで、片側の靴の中だけがぐしょぐしょになる。それと、時々その木に掴まって登るので、手に樹液がついて粘っこい。長い苦難の道もやっと落ち着いたが、今度は道をふさぐ水溜りが随所に。最初は避けて通っていたものの、靴の中まで濡れてきてたので、かまわず水の中を歩く。



やがて中山展望台に到着。当然、展望はないが、iPhoneでみんなの写真を撮るとアンテナが立っている。Facebookに中間報告を入れようと文字を打って送信しようとしたら『圏外』に。アンテナの立つところを探してうろちょろするうちに、iPhoneの画面が消えてしまった。スイッチを入れ直すが、画面は真っ暗なままなぜか、裏のライトだけが点いている。いわゆる水没という状態。トホホ・・・（その後、小屋のストーブで乾かすも復活せず。展望台の写真も幻となってしまいました。（笑）仕方なく、気を取り直して出発。

中山を通り過ぎると今度は急な下り。岩が大きく段差もあり、更に滑りやすくなっており慎重に下る。ここを過ぎ、比較的緩やかになってくると薄日が差してきた。「これは午後には晴れるのでは？」と期待しつつも、雨はあがらず中山峠に到着。

雨の中、登頂するためのタイムスケジュールは多少余裕を残してここまで来られたので、一旦黒百合ヒュッテに向

かい、そこでしばらく待機して後続のグループを待つことに。



婿殿は、息子を爺ジに預け本日帰京のため下山。最後のグループは途中で足を痛めたこともあり 11 時半に到着。一応、全員登頂までのタイムリミットまで到着したものの雨は降り続き、本日の登頂は断念。午後は、外にも出られず小屋の食堂にて A K B 4 8 のダンスを見ながら昼間から宴会。本日の荷物を軽くするためにお酒は昨夜のうちに飲み干してしまっ



たが、幸い小屋ではオリジナルワインのボトルが売っていました。知らず知らずのうちに小屋の人からは「よく飲みましたねえ～!!」と言われるほどボトルが並んでいました。

そうこうしているうちに窓の外が明るくなり、外に出てみると雨は上がっていました。みんなで外にでて写真を撮った



りしながら明日のことを考える。明日は、天気は回復するだろうが、どんなに早立ちしても天狗岳へ登って帰るのは無理。せめてどこかに登ればと思い、小屋の前に見える天狗の奥庭への道を行ってみる。

小屋の目と鼻の先なので、コースタイムは短い、岩を攀じ登るような道で、登っている途中で早や断念。明日は今日来た道を降りるだけを決める。山の天気のことなので、しかたないと思いつながらぬ、夏山でだれも頂上に立つことができなかつたのは初めて。「あ～!!せめて半日。」その思いが暫く頭の片隅から消えなかつた。

寝室は、昨夜と同じ2階。こちら階段はしっかりしていて問題はなかつた。大部屋のようなところで、1室を、会に割り当てられたので、昨夜よりゆったりできた。夕食後、外に出ると満点の星。天の川もはっきり見える。みんなも満足の様子。少し救われたような気がした。

【下山】



翌朝は、晴れ。昨日の雨の影響も考えず、最初から雨具を着ている人もいるなか、集合写真を撮って昨日と同じ6時半班ごとに出発。途中、天狗岳や奥秩父の連山、遥かこの山かもわからないほどの山々がはっきり見える好天の下、各班見晴台までは良いペースで進む。

展望台は昨日の借りを返してくれたような素晴らしい景色。北八の山々の向こうに北アルプスの山々、穂高から槍もくっきり。その先も25万分の1くらいの地図があれば山座同定が出来たが残念！。西から南へ目を移すと乗鞍岳、木曾御嶽。その手前に中央アルプス。そして南アルプスの北部。少し場所を移すと天狗岳の双耳峰が目に見える。月曜日の朝早くということもあり他の登山客もいないしろうまの会の貸切り状態。なのだが....ここでパノラマをバックに全員の写真を撮りたいが、撮ってくれる人がいない。タイマーをかけ、カメラをザックの上に置いて撮ったが、残念ながらパ

ノラマをバックにするアングルでは撮影できませんでした。残念！！

景色を堪能して下山を再開。昨日上った岩の上の道の下山は、思っていたよりも長く感じる。ただ雨でないのは本当に救いだ。各班かなり苦戦しながらもなんとか、高見石小屋に到着。早目に到着したので高見石に登ってみたが、サポートをしながら登るのはかなり厳しい。時間もあまりないので、全班が戻る間に行ける人だけ登ることに。最後の班が到着後、疲労している人もおり、下山時間もあるので班編成を変えて白駒池入口の駐車場まで向かう。



駐車場の出発は、予定より小一時間ほど遅れたが温泉に向かって出発。温泉では食事と入浴の予定で連絡をしていたが、手違いで全員一緒に食事ができませんでしたが、山の疲れと汗を流すことが出来たのでスッキリ。その後は、いつものように買い出しをしてバスで飲み直すも、みんな疲れているのか？または風呂上りの一杯で酔ったのか？、お酒も少量で足りました。帰りの高速は少し渋滞が

あったものの、概ねの予定どおりの7時半に新宿に到着して解散。

【エピローグ】

今年、会は創立25周年。その記念の夏山は、「海外とは言わないまでも、せめて初めて登る山で、ある程度標高のある山でないと」そう思いつつも、今の会の実力を考え導き出したのが今回の天狗岳。最初から厳しいのはわかっていたが、厳しいからこそ登った時に充実感があるのが登山。「出来れば全員。そうでなくても、行けるものだけでも頂上に立ちたかった・・・」一人や健常者だけで登る時は、天候に左右されて登れないことがあっても、「自然が相手なのでしかたない」と割り切れるが、やはりこの会で登る時は「山とはそう言うものだ」と簡単は割り切れないものがある。それが、冒頭の思いである。ただ、山の女神はそれほどのいじわるではなかったみたいですね。満点の星空や最後の日に見た展望は、2日目雨の中を頑張って登ったご褒美かもしれません。

足場の悪いなか、サポートを受けながら頑張った人たち、今回もサポートしてくれたみなさん。皆さんの頑張りがあからこそ、しろうまの会の夏山は景色などだけでなくは味わえないものがあるのだと思います。お疲れ様でした。

(夏山幹事)



■ 2013 夏山「天狗岳」コースタイム

8月24日(土) 天気：曇りのち霧

13:30 白駒池入口発 B班 15:20 C班 13:30 高見石小屋着

8月25日(日) 天気：雨

A班 6:30 高見石小屋発 8:20 展望台 9:45 黒百合ヒュッテ着

B班 6:40 高見石小屋発 9:48 展望台 11:35 黒百合ヒュッテ着

C班 6:30 高見石小屋発 9:40 展望台 11:55 黒百合ヒュッテ着

(11:15 頃 Tama さんの救援要請 11:30 Ka さんが Tama さんを背負って先行
11:45 中山峠 迎えに来てくださった Masa さんと合流)

8月26日(月) 天気：晴

A班 6:35 黒百合ヒュッテ発 8:30 展望台発 10:37 高見石小屋着 12:30 白駒池入口着

B班 6:45 黒百合ヒュッテ発 8:30 展望台発 11:30 高見石小屋着 12:45 白駒池入口着

C班 6:33 黒百合ヒュッテ発 8:30 展望台発 11:20 高見石小屋着 12:25 白駒池入口着

(Tama さんは 体力消耗 脚を上げるのも大変になって Masa さんに背負っていただくが最後は自力歩行。Tama さんを Ka・Ichi・Oh がサポート。Fu 母子と Oh・Sat が同行、下りでは事実上 Ken 班が分離して後続するような状態にしばしばなった。最終日は Oga さんが班に加わって Ken 君を先導した。)



■ 次回山行案内 (10 月山行)

日時：10月13日(日) 場所：関八州見晴台(奥武蔵)

■ 夏山の写真はフォト蔵にアップロードされています。会報ではそのいくつかを使用させていただきました。どうぞ皆さんもご覧ください。

フォト蔵アドレス：<http://photozou.jp/photo/top/877532>

■ 今号は夏山の模様だけをお伝えしました。

障害がある人もない人も一緒に登山を楽しむ会

しろうまの会

2013年9月21日発行

(通巻No.3)

ご連絡・お問い合わせ(お気軽にお問い合わせください)：shirouma@sd5.so-net.ne.jp

ホームページ：<http://www.shirouma.net>

facebook：<https://ja-jp.facebook.com/shirouma4620>